

座標空間において、原点  $O$  と点  $A(1, 0, -1)$  と点  $B(0, 5, 0)$  がある。実数  $t$  を用いて  $t\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB}$  と表される点全体を  $\ell$  とする。また、 $xy$  平面上の  $y = x^2$  を満たす点全体からなる曲線を  $C$  とする。

- (1) 曲線  $C$  上の点  $P(a, a^2, 0)$  を固定する。 $\ell$  上の点  $Q$  を、 $\overrightarrow{OA}$  と  $\overrightarrow{PQ}$  が垂直であるようにとる。このとき、点  $Q$  の座標を  $a$  を用いて表せ。
- (2) 曲線  $C$  上の点  $R$  と  $\ell$  上の点  $S$  のうち、 $|\overrightarrow{RS}|$  を最小にする点  $R$  と点  $S$  の組み合わせをすべて求めよ。また、そのときの  $|\overrightarrow{RS}|$  の値を求めよ。

(22 千葉大 6)

【答】

- (1)  $Q\left(\frac{a}{2}, 5, -\frac{a}{2}\right)$   
 (2)  $R\left(\pm\frac{\sqrt{19}}{2}, \frac{19}{4}, 0\right), S\left(\pm\frac{\sqrt{19}}{4}, 5, \mp\frac{\sqrt{19}}{4}\right)$  (複号同順) のとき、最小値  $\frac{\sqrt{39}}{4}$

【解答】

$$A(1, 0, -1), \quad B(0, 5, 0)$$

$$\ell: \overrightarrow{OX} = t\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB} \quad (t \text{ は実数})$$

$$C: y = x^2, \quad z = 0$$

- (1)  $\ell$  上の点  $Q$  は実数  $t$  を用いて

$$\overrightarrow{OQ} = t\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB} = t(1, 0, -1) + (0, 5, 0) = (t, 5, -t)$$

と表すことができ、 $\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{PQ}$  であるから

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{PQ} = 0 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

を満たす。 $P(a, a^2, 0)$  は固定されており

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{PQ} &= \overrightarrow{OA} \cdot (\overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OP}) \\ &= (1, 0, -1) \cdot \{(t, 5, -t) - (a, a^2, 0)\} \\ &= (t + 0 + t) - (a + 0 + 0) \\ &= 2t - a \end{aligned}$$

であるから、 $\textcircled{1}$  より

$$2t - a = 0 \quad \therefore \quad t = \frac{a}{2}$$

であり、点  $Q$  の座標は

$$Q\left(\frac{a}{2}, 5, -\frac{a}{2}\right) \quad \cdots \cdots (\text{答})$$

である。

- (2) 曲線  $C$  上の点  $R$  の座標は  $(a, a^2, 0)$ 、 $\ell$  上の点  $S$  の座標は  $(t, 5, -t)$  とおくことができる。 $R$  を固定したとき、 $|\overrightarrow{RS}|$  が最小となるのは  $\overrightarrow{RS} \perp \ell$  のときであり、 $\overrightarrow{RS} \perp \overrightarrow{OA}$  である。  
 (1) より、これを満たすのは

$$t = \frac{a}{2} \text{ のときであり、} S\left(\frac{a}{2}, 5, -\frac{a}{2}\right)$$

となる。このとき

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{RS}|^2 &= \left(a - \frac{a}{2}\right)^2 + (a^2 - 5)^2 + \left(\frac{a}{2}\right)^2 \\ &= a^4 - \frac{19}{2}a^2 + 25 \\ &= \left(a^2 - \frac{19}{4}\right)^2 + \frac{39}{16} \end{aligned}$$

となる。よって、 $a^2 = \frac{19}{4}$  のとき、 $|\overrightarrow{RS}|^2$  は最小値  $\frac{39}{16}$  をとる。

すなわち、 $|\overrightarrow{RS}|$  は

$$R\left(\pm \frac{\sqrt{19}}{2}, \frac{19}{4}, 0\right), S\left(\pm \frac{\sqrt{19}}{4}, 5, \mp \frac{\sqrt{19}}{4}\right) \text{ (複号同順) のとき, 最小値 } \frac{\sqrt{39}}{4}$$

……(答)

をとる。

- (1) を無視して次のようにしてもよい。

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{RS}|^2 &= |(t, 5, -t) - (a, a^2, 0)|^2 \\ &= (t - a)^2 + (5 - a^2)^2 + (-t - 0)^2 \\ &= (t^2 - 2at + a^2) + (25 - 10a^2 + a^4) + t^2 \\ &= 2t^2 - 2at + a^4 - 9a^2 + 25 \\ &= 2\left(t - \frac{a}{2}\right)^2 + a^4 - \frac{19}{2}a^2 + 25 \\ &= 2\left(t - \frac{a}{2}\right)^2 + \left(a^2 - \frac{19}{4}\right)^2 + \frac{39}{16} \end{aligned}$$

であり、 $|\overrightarrow{RS}|^2$  は

$$\begin{cases} t = \frac{a}{2} \\ a^2 = \frac{19}{4} \end{cases} \text{ すなわち } a = \pm \frac{\sqrt{19}}{2}, t = \pm \frac{\sqrt{19}}{4} \text{ (複号同順) のとき, 最小値 } \frac{39}{16}$$

をとる。

よって、 $|\overrightarrow{RS}|$  は

$$R\left(\pm \frac{\sqrt{19}}{2}, \frac{19}{4}, 0\right), S\left(\pm \frac{\sqrt{19}}{4}, 5, \mp \frac{\sqrt{19}}{4}\right) \text{ (複号同順) のとき, 最小値 } \frac{\sqrt{39}}{4}$$

をとる。